

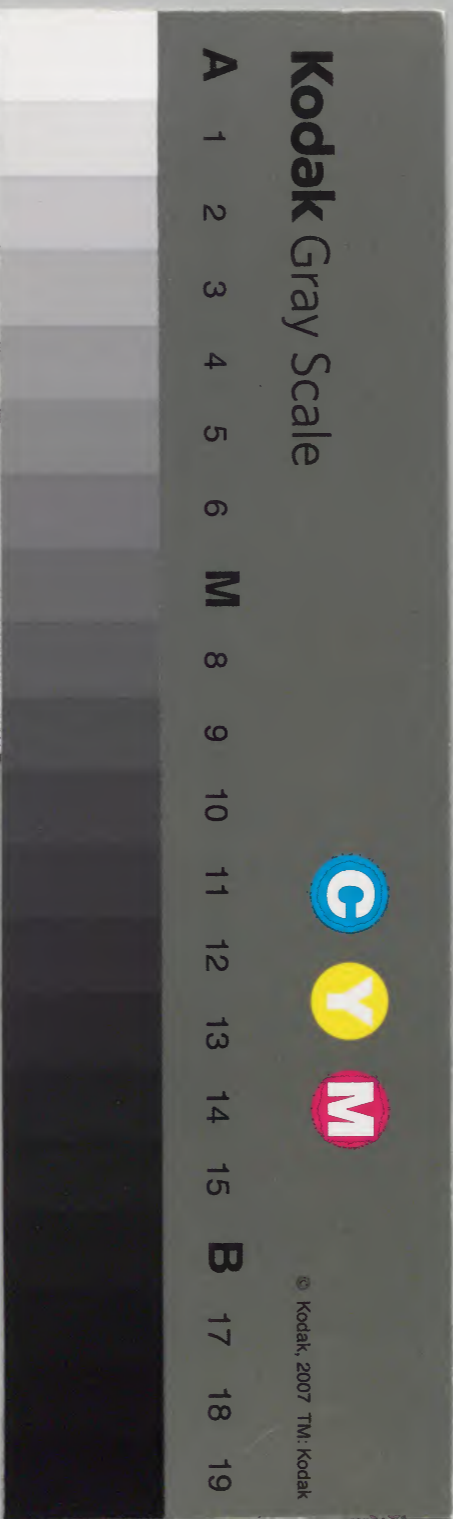
萬葉集略解

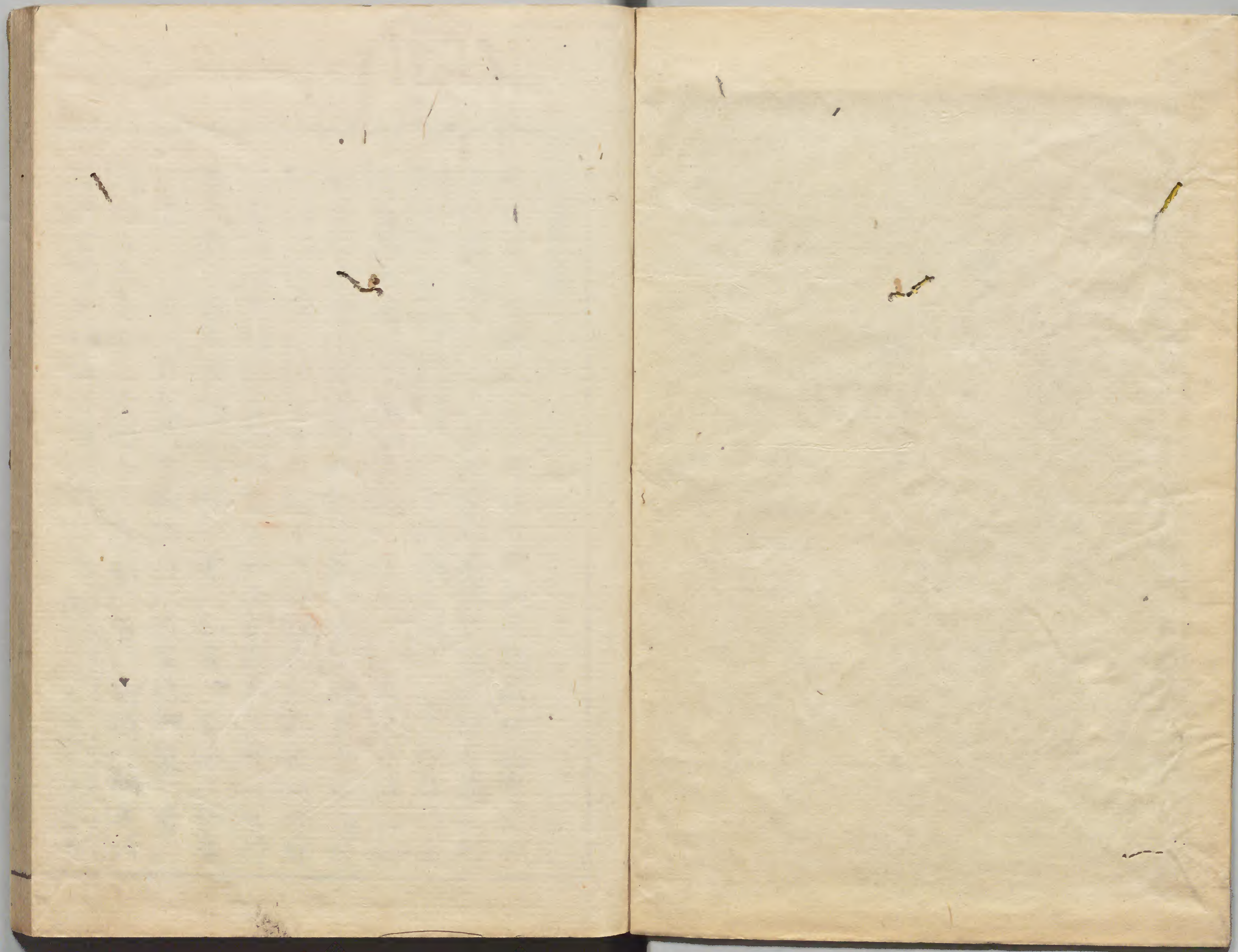
十六

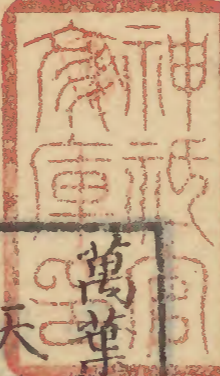
太政官文庫				和書門類
		七六		
三二	二九	七一	三	
冊	架	函	號	

內閣文庫				和書類
		七六		
二〇〇	一三	二一	三	
函	架	冊	號	

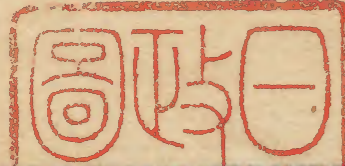
內閣文庫		
番號	和	7613
冊數	32 (28)	
函號	200	139







教部
文庫



萬葉集卷第十八

天平二十年春三月二十三日左大臣橘卿使田邊史福

麻呂饗越中守大伴家持館時新作并誦古詠各述心緒

歌四首今文橘家之使者造酒司令史田邊○于時期之明日二十四日將遊

覽布勢水海道中馬上口號二十五日大伴宿禰

家持往布勢水海道中馬上口號二十日久米朝臣廣繩館

覽時各述懷作歌六首二十日太皇御在難波宮時

宴饗田邊史福麻呂歌四首二十日和左大臣歌御製

歌七首二十日左大臣橘宿禰歌一首御製

首二十日於左大臣橘卿宅御船所江遊宴時御製一首

河內女王奏歌粟田女王奏歌一首御船以綱手所

遊宴時史福麻呂傳誦歌二首二十日御船以綱手所

この日詠のましましはまじりし
桑中がいつらんか太皇御所在

後追和橘大伴家持歌二首 ○ 山上臣射水郡驛館之
屋柱題著歌一首 ○ 四月一日掾久米朝臣廣繩館宴歌
四首 ○ 先国師從僧欲入京設飲饌饗宴時主人大伴家
持詠庭中牛麥花歌一首 大伴家持 ○ 大伴家持重作歌二
首 ○ 三月十五日越前國掾大伴池主來贈歌三首 ○ 十
六月越中守大伴家持報贈歌四首 ○ 姑大伴氏坂上郎
女來贈越中守大伴家持哥二首 ○ 大伴家持報歌一首
○ 又別所心歌一首 ○ 天平感寶元年五月五日饗東大
寺占墾地使僧平榮時守大伴家持送酒歌一首 ○ 同九
日諸僚會少目秦伊美吉石竹館飲宴時造百合花縵捧

雜波宮時哥七そとのこましく是なり、す、舟船以て信通之人田邊史福麻呂是也、
大その快より、江邊宮時之二そ、江邊宮時、舟船以て信通之人田邊史福麻呂是也、
田邊史福麻呂是也、舟船以て信通之人田邊史福麻呂是也、舟船以て信通之人田邊史福麻呂是也、

贈賓客各賦此縵歌三首 ○ 十日大伴家持獨居幄裏遙
聞霍公鳥喧作歌一首并短歌 ○ 行英遠浦之日作哥一
首 守大伴家持の
字と服せり ○ 天平感寶元年五月十二日守大伴家
持於越中國館賀陸奥出金詔書歌一首并短歌 ○ 幸行
芳野離宮時儲作歌一首并短歌 此文幸行の字の上為の
字と服せり ○ 十
四日大伴家持為贈京家願真珠歌一首并短哥 ○ 十五
日大伴家持教喻史生尾張少咋歌一首并短哥 ○ 十七
日大伴家持先妻不待夫君使自來時一首 此月詠は、史生
尾張少咋前妻不待
夫君使自來時大伴家持
作哥一首とあり ○ 廿三日大伴家持橘歌一首并短歌
本文と同
五月し ○ 二十六日大伴家持詠庭中花作歌一首并短
歌 ○ 掾久米朝臣廣繩天平二十年附朝集使入京天平
感寶元年閏五月二十七日還本任時大伴家持作歌一

首并短歌 本文の依り任時の下館設詩酒宴樂飲於時 ○霍公鳥歌一

首 大伴家持の ○二十八日大伴家持為向京見貴人及相

美人飲宴日述懷儲作哥二首 ○六月朔日晚頭守大伴

家持忽見雨雲氣作歌一首短歌一絶 ○四日大伴家持

賀雨落歌一首 ○七月七日大伴家持七夕哥一首并短

歌 ○越前國大塚大伴池主來贈戲歌四首 ○更來贈歌

二首 ○天平勝寶元年十二月大伴家持詠雪月梅花哥

一首 ○少目秦伊美吉石竹館宴守大伴家持作歌一首

○同二年正月二日於國廳給饗諸郡司時大伴家持作

歌一首 ○五日判官久米朝臣廣繩館宴時大伴家持作

歌一首 ○二月十一日守大伴家持忽起風雨不得辭去

作歌一首 本文より十八日縁檢察壘田地事宿願使郡主帳多治比部北里之家于時忽起風雨

天平二十年春三月二十三日左大臣橘家之使者造酒

司令史田邊福麻呂饗于守大伴宿禰家持館爰新歌并

使誦古詠 後紀天平十一年四月正六位上田邊史難波より久米福

麻呂此歌核の雄略紀田邊史伯孫より久米福

一橋家目錄に橘根のゆゑ元房本守の下時の事云々拾遺本新哥の上

作の字あり元房本守の下使と便に也

各述心緒 と本右の標より後けりこれハ野まれば多らま

奈吳乃宇美雨布禰之麻志可勢於伎爾伊泥氏奈美多知

又夜等見底可敵利許牟

なごのうとよよねましかせおきよいでなみちちやとこかろん

奈美ハ歌中よま出舟暫し借せん

奈美多底波奈吳能宇良未雨余流可比乃未奈伎孤悲雨

曾等之波倍爾家流

なみそいばきのうらまねよるかひのまききこひよごどいふら

上八万をとりてんちん

奈吳能宇美爾之保能波夜悲波安佐里之爾伊泥牟等多
豆波伊麻曾奈久奈流

なごのうごにまかのばいばあきかーいいでんとたづいまごちんちん

干澤上来るハ勢の求合せむしゆよ

保等登藝須伊等布登伎奈之安夜賣具佐加豆良爾勢武
日許由奈伎和多禮

ほとよまひすとよまひなりあひめぐながさふたつひんちんちん

此方より下は波もやうそふにしつ此方三月末の暮よみん

右四首田邊史福麻呂

于時期之明日將遊覽布勢水海仍述懷各作歌

和名抄

越中射水郡布西^ノと^レいゆはまき時期之の之ハ云の保ちん^ノと^レなり

伊可爾世流布勢能宇良曾毛許已太久爾吉民我彌世武
等和禮乎等登牟流

いのれせるふせのうらそよこがくまきみのこせんとわれをこむら

いのせさういふやうとていほの午の下世とえ廣本安まゆらいつふあふいひ

さるまきいひぞいふおきとるまきよもの海まくあれぞいひらいていづれよ

つゝまが

右一首田邊史福麻呂

乎敷乃佐吉許藝多母等保里比補毛須爾美等母安久倍
伎宇良爾安良奈久爾

まよのせまきこぎたかとほりいねまらふみとあくばいりあはまよ

・ 孝十七年布のさき花ちりまふいしよあうりんりんらんらんしんちのま
一云伎美我等波須母 キカトハハスモ 二のるちのちよふせりしよあるよ
いりり

右一首守大伴宿禰家持

多麻久之氣伊都之可安氣牟布勢能宇美能宇良乎由伎
都追多麻母比利波牟

たまきげいづのあけむよせのうみのうらまきつたまひりん

まろぐがめんといんあふりんハ拾んこ

於等能未爾伎吉底目爾見奴布勢能宇良乎見受波能保
良自等之波倍奴等母

れよのまにきうてめふこぬよせのうらまきつたのたうりハいりり
のやうハまへのりり

布勢能宇良乎由吉底之見豆波毛母之綺能於保美夜比
等爾可多利都藝底牟

よせのうらまきつてみてバカ一きのおぢやびりかうびりん

波と元唐を婆おゆるをよきいそてづりてあふバ

宇梅能波奈佐伎知流曾能爾和禮由可牟伎美我都可比
乎可多麻知我底良

うめのななさきちるそのよわれゆんまきつついをかまちかてら

孝十七年八月十日て裁るる言あつるを福正を討あつるよむく編一

くさふふふんハ移るるの指候一もあつるの伎のまんと結うてふ梅の花

いんりりよとれア

敷治奈美能佐伎由久見禮婆保等登藝須奈久倍吉登伎
爾知可豆伎爾家里

ふちのみのさきいへんればなむおもむきとたふちのさきふけり

右五首田邊史福麻呂

安須能比能敷勢能宇良未能布治奈美爾氣太之伎奈可須知良之底牟可母

あむのひのよせのうらまのよちまにけいさあのおちらしてんのも

一本のわくきさと智ぞよきえ房か伎奈の頃の頃と愛よけふ石来

鳴くはむおりの鳴ぬるよ藤花のおんこと惜むと

一頭云保等登藝須

右一首大伴宿禰家持知之

前件八首歌者二十四日宴作之

ふ本十そとめ目録下依改

二十五日往布勢水海道中馬上口號二首

目録下大伴家持

作とまてくまほせり

万解十八 五

波萬部余里和我宇知由可波宇美邊欲利牟可倍母許奴可安麻能都里夫禰

はまぶあわのうちゆのばうみぶあむうらふあまのつらね

うちゆのうらふあまのつらねあまのつらねあまのつらね

うらとあまのつらね

於伎敝欲里美知久流之保能伊也麻之爾安我毛布伎見我彌不根可母加禮

おきよあみちくるまかのいあまよあごのそよまにのころあねのしかれ

一二の句いあまよあごのそよまにのころあねのしかれ

が毎らもといつをかくとりまあしつらねくるまかのいあね

至水海遊覽之時各述懷作歌

今至水邊よりえ房か

目録下水海とあると改目録下化歌六首とあり

可牟佐夫流多流比女能佐吉許伎采具利見禮登裳安可
受伊加爾和禮世牟

かんさぶるたるひめのせきこぎめぐちみねいあのみいりよりれせん
たふひめの結布幣の羽の内の名と足ゆを十九は無煙ふちちあ
つくとよみりれとあふあまりにまいのいせんとせしこ

右一首田邊史福麻呂

多流比賣野宇良宇許藝都追今敷乃日婆多奴之久安曾
敞移比都伎爾勢牟

たふひめのうらをこぎうけのひためくあうべいしぎよせん
野ハハうまて之のこせいしぎよせんハはのいしぎよせん日
の下婆一本波よん

右一首遊行女婦土師

不才夫
二保

多流比女能宇良宇許具不禰可治未爾母奈良野和藝敞
宇和須禮氏於毛倍也

たふひめのうらをこぎあがたまにとならぬのわざをわらひあや
夫禰くをたまの信之え層わ信を改つ夫ハ信をまを困られせん
かぢまハ概つよるまていもまきせよまの信ハ奈良の神家とせけん
やとまのいほるぬの

右一首大伴家持

右一首大伴家持

於呂可爾曾和禮波於母比之宇不乃宇良能安利蘇野采
具利見禮度安可須介利

おるのふぞとれはけひをのうらあうそのめくわらあうふら
たまのいほるぬの

右一首田邊史福麻呂

有八誤

采豆良之伎吉美我伎麻佐波奈家等伊比之夜麻保等登
藝須奈爾加伎奈可奴

めづらきみのみさまをばなげしむやまほくまふうきさうぬ

月よきけいおんせおきつるこまけいしううへ波一本婆よけ

右一首椽久采朝臣廣繩

多胡乃佐伎許能久禮之氣爾保登等藝須伎奈伎等余采
婆波太古非采夜母

たこのときこのれまげよほくまふうきさうぬ

婆波とをほて下よせりえ廢かふうて改こみくれまげ八木園

盤こよあが令傳者こいめやハ霞公をきりてり

右一首大伴宿禰家持

前件十五首歌者二十五日作之

十五をハほくくハそハふハあめ

一万斛十八七

脱るる

椽久采朝臣廣繩之館饗田邊史福麻呂宴歌四首

保登等藝須伊麻奈可受之且安須古要牟夜麻爾奈久等

母之流思安良采夜母

ほくまふうきさうぬ

こののまの厚さきまふうてのうあまふうきさうぬ

らんらん

右一首田邊史福麻呂

許能久禮爾奈里奴流母能乎保等登藝須奈爾加伎奈可
奴伎美爾安敬流等吉

このくれよまふあめこのをたむまふあめこのをたむまふあめ

三月のまふうてや美爾安敬流等吉

右一首久米朝臣廣純

保等登藝須許欲奈和和多禮登毛之備乎都久欲爾奈蘇
倍曾能可氣毋見年

ほとぎきこよたまきわつれとそびをつくよけあごそののげもこむ

こよはこゆとほと、後世のこと、等、あまのつと、月夜よまどとて、そむく
まことの影とくんと

可敬流未能美知由可年日波伊都波多野佐加爾蘇泥布
禮和禮字事於毛波婆

かふるまのみちゆのんひいつもこのせうたそでわれれをーおもひ

心ええ越年より越あのおの國へ神も二のちあり、いつもこごるは海津へ
おまのめごるは敷賀のほくぞん、まのあそるはこもれさのきる
也といつり、かふるまは、ゆの路の程、いつもこごるゆか、神名帳越

前敷賀郡加比留神社又鹿葦神社あり、かふるまもこごるは、
ゆれば、此可敷流は、比名もくまの河の浦ま磯まをのまとい、
いつも、敷賀敷五幡神社と、作か、坂、ほのちよか、つやま
いつ、よ、合せ、事、此、思、留、事、也、里、と、ち
これ、情、き、月、し、こ

右二首大伴宿禰家持

前件歌者二十六日作之

借足姬
天皇也

は、元、正、天皇、

左大臣橘宿禰歌一首

保里江爾波多麻之可麻之乎大皇乎美敷禰許我年登可
年且之里勢婆

ほりさるよいたまこまのまのまのよねこごんとかねくちせは

皇上下
ハ之ノ誤

・ほついの橋津、皇の下手ハ之の湯

御製歌一首 和

元正天皇の御ことくあらし和のまはほ人の加たまん

多萬之賀受伎美我久伊互伊布保理江爾波多麻之伎美
互々都藝互可欲波牟

たままのすまみづぐいていほつるまはたままみてつぎくかよりん

君ハ橋津とさうまうちまのまうとあてりやうのまむとあ

てはる。いふまきいおんこくまかまか

或云多麻古伎之伎互

こまかきいりまいこく何

右二首件歌者御船游江遊宴之日左大臣奏并御製

二首とくか一首も得れり

御製歌一首

多知婆奈能登乎能多知波奈夜都代爾母安禮波和須禮

登乎能
ハ登能
ノ誤

万解十八 九

自許乃多知婆奈年

たぢばなののいもぢばなぢつたもあれはわすれどこのいもぢばなを

次下の方ハ登能乃とらるるとあれどと登乎能ハ登能之とあり

とほれるまうと、括この歌の左の橋をわかくせしあつるん

やつ代ハ保也まづハ登能とされはわすれりこハ登能マのいもぢ

とをれはる。のこまはてかのでまよとあつるこ

河内女王歌一首

後紀天平十一年四月後四位下より位上と扱

このとよめしつとあゆまふはまの女

多知婆奈能之多泥流爾波爾等能多互天佐可彌互伎伊
麻須和我於保伎美可母

たぢばなののいもぢばなぢつたもあれはわすれどこのいもぢばなを

きりまの橋のまのきりまを映るるのま十九まの苑わたりハ桃の花

かぢとつりつよあの鳴るもろとていひつけしうつらつらつらハ其まは
茅原曲ツラクとあるゆくつまじらうと思ふ詞もく切まきつらんと
あつとく上の都波の波の婆の語

右一首山上臣作不審名或云憶良大夫之男但其正名
未詳也

四月一日掾久米朝臣廣繩之館宴歌四首

宇能花能佐久都奇多知奴保等登藝須伎奈吉等與米余
敷布美多里登母

この歌のまじりてきこめほくぎよきまきとやあふみり
と本敷布里とよはゆへ一本は信く改つおふハれ候ぬとのそこ

右一首守大伴宿禰家持作之

敷多我美能夜麻爾許母禮流保等登藝須伊麻母奈加奴

布下美ヲ
里ニ誤

方解十八
十二

香伎美爾妓可勢牟

あつこののやまにこりれるほとぎよまもかのぬのまよさつせん

考十九二上のまのの整し許毛爾之波はくますあしどいあつこを
うげしとよあかの許毛尔の尔ハ里の混とる一妓一本伎は

右一首遊行女婦土師作之

乎里安加之許余比波能麻牟保登等藝須安氣牟安之多
波奈伎和多良牟曾

をりあのこよひのまんほとぎすあかんあしハまきつらんぞ
さうあしハ居りし之ハれハあつこのまきんハあつとるハ飲つるハ

とわら

二日應立夏節故謂之明且將喧也

右一首守大伴宿禰家持作之

帳ヲ張
臣ヲ巨
ニ誤

安須余里波都藝豆伎許要牟保登等藝須比登欲能可良
爾古非和多流加母

あむよあひびぎそきこえむほむぎよひとよのからにひひるるが

右のほむいふごとくつゝのま夏まらぐに神代紀一夜間といよの

のらむとよのち

右一香羽吹郡擬主帳能登臣乙美作 職負令子大郡主帳

三人掌_下受事上抄勘署文案檢出稽失讀申公文_二擬と

いふハ文章生の擬生のめくちと_一臣とと巨に倍ら古本に依

て改結登臣ハ古る記垂仁條齊明紀傳記をハちとに及る

と姓也

詠庭中牛麥表一首 矣仲一切徑身我第十二に瞿此謂云牛

とよこれよつぎく瞿麦とと牛麦とわくをとよつよ瞿麦の瞿ハ枕

法にととれし牛と枕_二瞿と_一或ハ遇の字を用ふ瞿ハ枕_二法_一

何言小用_二うら_一目録子_一一首ととと_二奇の字_一と服せり

比登母等能奈泥之故守惠之曾能許己呂多禮爾見世牟

等於母比曾采家牟

ひとものなでしこうととみ_一るねみせんとおまひるめらん

そのりそんとゆかり_一傳のまゆけ_二さ_一るあつと_二ま_一と_二傳_一也

右先國師後僧清見可入京師因設飲饌饗宴于時主人

大伴宿禰家持作此哥詞送酒清見也 送_二贈_一と通用

之奈射可流故之能吉美能等可久之許曾揚奈疑可豆良

根多努之久安蘇婆采

とよさのる_二の_一のきものとかく_二そ_一やわさかづきし_二ぬ_一とおそ_二め

吉美能の能ハ字_二河_一集_二中_一係_二と_一之_二原_一本_二吉_一美_二良_一と_二か_一づ_二き_一ハ

吉波安賀未奈里家利

くさくさいんちあつけいりすべのふさぎもなきいあがみなりけり
えん名づけいりい後くもあつけいりえんちちものえとほどきうまは
トナリが、そも男めあゆの古きと借利ひるう

一 更臆目

美之麻野雨可須美多奈妣伎之可須我雨伎乃敷毛家布
毛由伎波敷里都追

みーまぬがすをたきいすのすまにきのすけはしゆきいあかつ

和名抄射水郡三島 美之 小園るれ三月ちをれさあれるちるい

よま様の名さういよまれいしサマ

二月十六日 ちいりよまてー

姑大伴氏坂上郎女来贈越中守大伴宿禰家持歌二首

都禰比等能故布登伊敷欲利波安麻里雨且和禮波之奴
倍久奈里雨多良受也

つねびとのこさといよあはあまうあてけれはまぬつくたあにらぞや

なつさうさうがやいあうりうくあうまやしうさそあづく来いりうえ

古今集卷一とくさう名づけんともえんまぬとぞとていよまあなると

よあはまぬい

可多於毛比遠守萬雨布都麻爾於保世母天故事部雨夜
良波比登加多波牟可母

かとおひをうまてつまのおかせていへやらびひとかづえんか

よつまは太馬二平家おほきさむにうくくくちまきるとらるそこのく

及抗集山風のそのがうあわらふまのあそりいちりたると

よめらかごうよ回くくかどつてさむくかどあぬをいし

まきあふとよ原せやうば盗人がとる一きと城のり

越中守大伴宿禰家持報歌并所心三首 目録に報歌二首

又所心一首とありてハ下ニ別所心と奉るれ報歌二首とあり并

以下の五字別をい

安萬射可流比奈能都夜故爾安采比度之可久古非須良
波伊家流思留事安里

あまづのるひまのこやこよあめびとのかくこひすらばいくるまきあふあま

都ハ美の語りいさのこやことハ國府とつて遠のみおとをとりまこと

同じとあひいれまきえ原本ハ能の字をうへひまつやこわしかさけりあ

浪をまきあふあめびとハ皇都の人とさきりた信周の國の人と天人と

いづるまきをあひいれこやこよこひのねをくわいこひぬまきとま

と嫁とまきこやこひかくこひまきとまきあふまきとまきとまきと

思ふる人又室を大まは夜故ハ夜故を誤りてといつてまこと二
まきと一國府とみやこつてまきと一なる遠のね延といつてハ事のまきを
まきといつてはまきと一

都禰能孤悲伊麻太夜麻奴爾美夜古欲利守麻爾古非許
婆爾奈比安倍牟可母

つねのこひまきやまぬよみやこよまきとまきとまきとまきとまきと

我をまきとよめあひまきとよまきとよまきとよまきとよまきとよまきと

別所心一首

安可登吉爾名能里奈久奈流保登等藝須伊夜采豆良之
久於毛保由流香母

あのとまきとあのとまきとあのとまきとあのとまきとあのとまきとあのとまきと

よまきとあのとまきとあのとまきとあのとまきとあのとまきとあのとまきと

等於母比曾采豆伎

とそびのこいふにみゆるせゆりむなゆりもあふむとおひるきてき
ゆりもあふむハハギとよびのあかまつのせゆりむゆりといれバ
よろめよほふ後やうりつとをりといつる事申不事一かおとら
此令集を意いりといふ次下の事うり一回でけさの句あり

右一首今内藏伊美吉繩麻呂

左由理波奈由利毛安波牟等於毛倍許曾伊未能麻左可
母宇流波之美須禮

せゆりもあふむとあふむとおひるこりいまのまきこのしうるハハギとよ
たのこのれおはハハギとよそのはと男ハハギとよハハギとよハハギとよ
ハハギとよハハギとよハハギとよハハギとよハハギとよハハギとよハハギとよ
ハハギとよハハギとよハハギとよハハギとよハハギとよハハギとよハハギとよ
はハハギとよハハギとよハハギとよハハギとよハハギとよハハギとよハハギとよ

右一首大伴宿禰家持

獨居幄裏遙聞霍公鳥喧作歌一首并短歌

高御座安麻能日繼登須賣呂伎能可未能美許登能伎已
たのみくらあまのひつきとすめるぎののみこのきこ
之乎須久雨能麻保良雨山子之毛佐波雨於保美等百鳥
しをさくふのまわらにやまをしもせむにわかこりこ
能来居豆奈久許惠春佐禮婆伎吉能可奈之母伊豆禮乎
のきみるくなくこををるせれハハギとよハハギとよハハギとよ
可和根豆之努波無宇能花乃佐久月多豆婆采都良之久
のたきとよハハギとよハハギとよハハギとよハハギとよハハギとよハハギとよ
鳴保等登藝須安夜女具佐珠奴久麻泥雨此流久良之欲
なまほとぎこてあやめくたまぬくまをたひるくらよ

和之伎氣騰伎久其等爾許已呂豆吳枳豆宇知奈氣伎
安波禮能登里等伊波奴登枳奈思
あはれのとめといもぬときなす

言流く内匠寮式凡毎年元正前一日官人率木工長上雜工等裝飾
大極殿高御座注蓋作八角角別上之小鳳像下懸以玉幡每面懸一
鏡三面當頂著大鏡一面蓋上立大鳳像摠鳳像九隻鏡二十五面云々
是ハ即位相賀蕃客拜胡オの時飾る也ハバももも府よおハト
まをててかくつづくもま三まるくのいまの山よりあもしそ
小同じ冠輝考よあーまこーのハきこめまよ同し此もあま
二天守の初めをとりまらる紀ノ奥區とあまらるうと訓
るハひらうとくびる政よいつそより越中ノ國のものとよまを小お

ほみとさをかまきりちるさまのいつるあまのぬきまをりまを
といかつまといける勢えがうもあまの同ひらうとまをりハハ
あまらるる豆ハ字のその候はらうとまをりハハハハハハハハハハ
るまきまのあまらるるあまらるるあまらるるあまらるるあまらるる

反歌

由具赦奈久安里和多流登毛保等登藝須奈枳之和多良
婆可久夜思努波牟

ゆくあくあわゆるともがきまなまきーわくわくわくわくわくわく
あまらるるあまらるるあまらるるあまらるるあまらるるあまらるる
あまらるるあまらるるあまらるるあまらるるあまらるるあまらるる

宇能花能開雨之奈氣婆保等得藝須伊夜米豆良之毛名
能里奈久奈信

うのそわのそくみーあけはほとぎもいやめづりもなのかたなくあへ
開元唐本登園子作、こそみけはとがさつり、用のこまきと、こまき
五、みそ花のつとたふよめまかくいり

保登等藝須伊登禰多家口波橘能播奈治流等吉爾伎奈
吉登余年流

かともぎと、いねけく、たはまのちちるときよさきとよむる
橘の枝を枝むとらまて、伊人あゆむるがね、まこと、神代紀慷慨
をねし、し、所、治の流をとある、い、知の得れ

右四首十日大伴宿禰家持作之
行英遠浦之日作歌一首

安乎能宇良雨餘須流之良奈美伊夜末之雨多知之伎與
世久安由乎伊多美可聞

あまのうららよまるとらたかこ、やま、たち、きよせくあゆむい、か
あまの海、こ、あ、ゆ、り、越、才、と、ま、り、た、ち、き、よ、せ、く、い、の、起、重、き、の
ま、こ、あ、の、い、ま、風、と、よ、ま、七、二、自、は、り、

右一首大伴宿禰家持作之
賀陸奥國出金 詔書哥一首并短歌 德紀聖武天皇天

平廿一年丁巳陸奥國始貢黄金云、同年四月甲午朔天皇幸東大寺御
盧舍那佛像前殿、勅遣左大臣橘宿禰諸兄白佛三宅、乃、奴、止、仕、奉、天、皇、
命、盧、舍、那、像、太、前、奉、賜、上、奏、此、大、倭、國、者、天、地、開、闢、以、來、金、
國、用、獻、言、有、斯、地、者、無、物、念、聞、看、食、國、中、東、方、陸、奥、國、守、
後、五、位、上、百、濟、王、敬、福、部、内、少、田、郡、黃、金、在、奏、獻、此、遠、聞、食、驚、伎、
云、く、と、も、詔、書、の、こ、を、り、ね、と、哥、の、は、ま、あ、く、い、り、

葦原能美豆保國守安麻久太利之良志賣之家流須賣呂

あーらのみづかふをあまぐふ。まらー久ーける。せめろ
伎能神乃美許等能御代可佐禰天乃日嗣等之良志久流
きのかこのみここのみよかさねあまのいつぎとまらーくる
伎美能御代御代之伎麻世流四方國爾波山河乎比呂美
きみのみあゝまきませるよものくつハやまかをいろこ
安都美等多呂麻豆流御調寶波可蘇倍衣受都久之毛可
あつとたてまつるみつきだうらハかぞへえすつくしもか
禰都之加禮騰母吾大王能毛呂比登乎伊射奈比多麻比
ねつまのれどもわがおほきこのもろびとをいさあひまひ
善事乎波自米多麻比豆久我禰可毛多能之氣久安良年
よきことをばドめまひてくがねのしたのーけくあらむ
登於母保之豆之多奈夜麻須爾鷄鳴東國能美知能久乃

とおかりてとてなやますにどうがくあつまのくよのみちのくの
小田在山爾金有等麻字之多麻敬禮御心乎安吉良米多
をだなるやまのくがねあまとまうーたまれくろをあきらめ
麻比天地乃神安比字豆奈比皇御祖乃御靈多須氣豆遠
まいあめつちのかあひうづまひをめろきのみたまたをけてとらき
代爾可可里之許登乎朕御世爾安良波之豆安禮婆御食
よにかアーことをわがみよふあらはしてあれをみをを
國波左可延牟物能等可牟奈我良於毛保之賣之豆毛能
ぐふかさかえむものとかむなづらおもほしめしてもの
乃布能八十伴雄乎麻都呂倍乃牟氣乃麻爾麻爾老人毛
のふのやそこのをまつろへのむけのまふおひびとも
女童兒毛之我願心太良比爾撫賜治賜婆許己乎

治
誤

めの... 安夜雨多敷刀美宇禮之家久伊余與於母比豆
あやまたよとみうれいけく... おとひく
みづが國ハ稚... 後の種か... 保の下乃と股せ
れ又ハ短句... あまぐ... 天宮を... 山河
厚... 津調室ハ... 善事
を始... 法の上... 始め... ね... 後
の善事... 國民衆... 思合... ち...
やま... 御ハの中... 山陵奥國小田郡の山
神名怪小田郡黄金山神社... 奏され... 奏され

万解十八
サニ

ハと... 御ハの中... 山陵奥國小田郡の山
神名怪小田郡黄金山神社... 奏され... 奏され
ハ右の詔書... 天坐神地坐神乃相守豆奈以奉... 詔... 云...
皇後禮の... 天皇の... 皇... 皇...
上の頂... 神の美許等の... 皇... 皇...
欠... 遠代... 可... 可... 可... 可...
是ハ奈と股... 御食國波... 皇... 皇...
林... 天宮... 申... 皇... 皇...
ま... 皇... 皇... 皇... 皇...
己... 皇... 皇... 皇... 皇...
あやハ... 皇... 皇... 皇... 皇...

たすむといひて、其の辰ハ系遠つれど、その事とて、大伴をさがし、
大伴能遠都神祖乃其名字婆大来自主登於比母知互都
おほとのとつかんおやのそのなをいおかくめぬとおひて、つ
加倍之官海行者美都久屍山行者草牟須屍大皇乃敝爾
の（一）つらうみゆのばこづくかぬやまゆのばくやむまがぬおかきこのへま
許曾死采可弊里見波勢自等許等太互丈夫乃伎欲吉彼
こそまなめか一ちみハセドとことたてますらをのまよさるの
名字伊爾之敝欲伊麻乃乎追通爾奈我佐敝流於夜能乎
なをいふへよいまのをつよなぶさへるれやのこ
等毛曾大伴等佐伯氏者人祖乃立流辭立人乎者祖
いぞおかきこのへまのうぢいのおやのさうとごとくいひのこおやの
名不絶大君爾麻都呂布物能等伊比都雅流許等能都可

なたさねかきみよまつろふものといひつけることのつ
佐曾梓弓手爾等里母知互劔大刀許之爾等里波伎安佐
さぞあづきゆみてよちもちてつきたちこよとちけきあさ
麻毛利由布能麻毛利爾大王能三門乃麻毛利和禮乎於
まわしゆよのまわしにわかきこのへまのまわりわれをお
吉互且比等波安良自等伊夜多互於毛比之麻左流大皇
きてまゝしとハあらトといやたておわしませるれかきこ
乃御言能左吉乃一云聞者貴美
のこのことのおさきのまけはたよとみ

大伴の遠つ神祖ハ神代紀一書ハ高皇產靈尊以真床覆衾畏天
律彦国光彦火瓊杵尊則引開天磐戸赫分天ハ重雲以奉降之
于時大伴連遠祖天忍日命帥来目部遠祖天穗津大来目背肩天

反歌三首

丈夫能許已呂於毛保由於保伎美能美許登能佐吉乎
能 聞者多布刀美

一云貴久之安禮婆 そしとまきのとあらはからどてはかろん

大伴能等保追可牟於夜能於久都奇波之流久之采多底
比等能之流倍久

おろしのかつかむおののおくつきはさるくもあつてひとのきさく
まゝとて標立し、それとてしるく人の知中よ標立しとてしるく

須賣呂伎能御代佐可延年等阿頭麻奈流美知能久夜麻
雨金花佐久

万解十八 廿六

とめるきのみよこのろくをあつまあるみちのくはまはくかねちやく
こちのくは後奥のこしりやくく小田那の心をいふ、さうくやくの花
咲よなるぞとて金のゆるると花咲といひささるく奇よ久我祐
まねばりやくかねとけり

天平感寶元年五月十二日於越中守館大伴宿禰家
持作之

為幸行芳野離宮之時儲作歌一首并短歌
多可美久良安麻能日嗣等天下志良之賣師家類須賣呂

たのみくらあまのひぎとあめのしとちらしめしけりなめろ
伎乃可未能美許等能可之古久母波自采多麻比豆多不

きのかみのみことのりかしくははめたよひてたふ
刀久母左太采多麻淑流美與之努能許乃於保美夜雨安

名負
ハ名負
ハ保

どくしきためたおまへみおしぬのこのちかやあ
里我欲比賣之多麻布良之毛能乃敷能夜蘇等母能乎毛
アガよひめしたまふらしもの女やそこのをを
於能我於敝流於能我名負名負大王乃麻氣能麻久麻久
おののおへるおののおおしておほさそのまけのまけ
此河能多由流許等奈久此山能伊夜都藝都藝雨可久之
このおののたゆることおくこのやまのいやつきくふのく
許曾都可倍麻都良采伊夜等保奈我雨
こそつうまつらめいやとかなのに

天の口ぎよまをまひてとハ森明紀二年吉野
宮と造とあるを、あながういハまはりの天皇の章一はつと
めしよふハアをぬふも一食園と賣之をともあふはし

この良之の河ハ事二河物良之、事サつてめすは志をこと甲く集
中一つの格うく、そのらーのさと長、おのハ名負名負ハ定まら名負
ミトミとなく保れるもん、先程より居つた家の蔵と居てとりつと
いつ、まけの麻久、ハ、あせくとゆら、まうせむつてまはつと随ハ
何の不能めく、ふの後ろめ、遠くはアと、又ハ麻久の久ハ余の保
お、まけのまめく、ハ、ま、ハ、ハ

反歌

伊爾之敝乎於母保須良之母和期於保伎美余思努乃美
夜乎安里我欲比賣須

いふしを、お、ほ、す、ら、む、お、あ、さ、く、よ、め、の、み、や、を、あ、か、い、め、す
免、ま、け、の、ま、め、く、ハ、ま、ハ、ハ

物能乃布能夜蘇氏人毛與之努河波多由流許等奈久都

一云我家牟伎波母 いんはよひまきやうりて深字のこゝ

右五月十四日大伴宿禰家持依興作

教諭史生尾張少咋歌一首 并短歌

七出例云 戸令さいく凡并妻頃有七出之状一無子二婦決三不

事舅姑四口舌五盜竊六妬忌七惡疾皆夫手書并之

但犯一條即合出之無七出輒棄者徒一年半三不去云

云の上例の字より戸令さいく雖有并状有三不去一經持舅姑之喪

二娶時賤後貴一有所受無所歸

雖犯七出不合棄之違者杖一百唯犯奸惡疾得棄之

兩妻例云有妻更娶者徒一年女家杖一百離之

詔書云懲賜義夫節婦

謹案先件數條建法之基化道之源也然則義夫之道情

存無別一家同財豈有忘舊愛新之志哉所以綴作數行之歌令悔棄舊之惑其詞曰

於保奈牟知須久奈比古奈野神代欲里伊比都藝家良之
おほなむちもくまひてなのかそくさいひつぎけら
父母乎見波多布刀久妻子見波可奈之久米具之宇都世
ちりつをいれればたふとくめこみればかなしくめくしうつせ
美能余乃許等和利止可久佐未爾伊比家流物能乎世人
みのよのことわりとかくさまにいひけるものをもよひと
能多都流許等太豆知左能花佐家流沙加利爾波之吉余
のたつることだてちさのそなせけるせうりにそしきよ
之曾能都未能古等安沙余比爾惠美く惠未須毛宇知奈
しそのつまのことあさよひよをみたまむもちちな

大
誤

破ハ放
ノ誤

益ハ溢
ノ誤

呉ヲ具
ニ誤

氣伎可多里家未久波等己之部爾可久之母安良米也天
けきかゝアけまくハとこへまかくもあらめやあめ
地能可未許等余勢天春花能佐可里裳安良多之家牟等
つちのかみことよせてそるまのさのりり

吉能沙加利曾波居豆奈今可須移母我何時可毛都可比
きのせうりぞさりめてまげのすいものいつうもつひ
能許牟等未多須良無心左夫之苦南吹雪消益而射水河
のうんとまゝをらんごめさごうくみるまきゆきげをうていづる
流水沫能余留弊奈美左夫流其兒爾比毛能緒能移都我
なごるみなわめよるごなごせぶるそのこにひものをのいつの
利安比豆爾保騰里能布多理雙坐那具能宇美能於伎乎
りあひてほぼりのやアならびぬなどのうこのおきを

布可采天左度波世流伎美我許已呂能須敵母須弊奈佐
よのめてせとばせるまみごころのをもべもすべなま
言佐夫流者遊行女婦之字也

大ちむぢもくさいこまのそま三ま七ま物く改よいつ
父母とてまま父母をんれごうてめこれごをごうてつあ
はかくごころりま十五の年のまのこころうかごまふまごら
同じままもろ家ら之のま久のほこといりけくといままらわのほま
よのうぢよの人のまのまごころよま大付と佐佐のま人のまのつ
舞まもよまらちまのま七ま本いまのままらまらまら
ふちまのまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
そのつまのまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
ありていりまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

けんハといふと、こころよき、いつしか、賦くといわると、次よ、こころよ
らんといふ、對して、あま、ま、花のこころ、女良多之室、佐可里
蒙安良年等、未多之家、年ときのこころ、と、年等、未の三字、取
らる、誓、あると、か、待、く、今、その、雪、ち、り、之、曾、の、信、ち、
べ、とい、り、是、御、ま、波、居、豆、の、信、の、信、ち、と、こ、り、あ、く、と、ま
く、とい、け、ま、ご、ん、ご、づ、く、か、ま、の、ん、ご、づ、く、と、ま、の、ま、ご、
ま、ご、づ、く、り、こ、れ、と、雪、内、の、下、蓋、の、信、ち、げ、下、よ、射、水、河、雪、信、
と、よ、り、南、吹、け、下、の、白、の、よ、ま、み、と、い、ん、序、と、信、ち、よ、ま、ご、
ま、に、遊、幼、女、婦、ま、ち、れ、う、り、と、ま、の、信、ち、ま、ご、づ、く、と、ま、ご、づ、
ん、り、つ、ま、ご、り、女、婦、之、字、と、い、つ、の、信、あ、ん、と、ま、ご、づ、く、
信、ち、ま、ご、づ、く、信、ち、ま、ご、づ、く、信、ち、ま、ご、づ、く、信、ち、ま、ご、づ、
の、略、ち、ま、ご、づ、く、九、豊、團、の、か、り、と、ま、ご、づ、く、信、の、信、ち、ま、ご、づ、
の、略、ち、ま、ご、づ、く、九、豊、團、の、か、り、と、ま、ご、づ、く、信、の、信、ち、ま、ご、づ、

百解十八 三十二

よ、あ、り、ひ、の、を、い、つ、つ、つ、い、ん、神、と、ま、ご、づ、く、信、ち、ま、ご、づ、
い、つ、つ、つ、ま、ご、づ、く、信、ち、ま、ご、づ、く、信、ち、ま、ご、づ、く、

反歌三首

安乎爾與之奈良爾安流伊毛我多可多可爾麻都良年詩
已呂之可爾波安良司可

あ、ま、に、よ、ら、ら、に、あ、る、い、ん、が、た、の、い、ま、ま、ご、づ、く、信、ち、ま、ご、づ、
サ、味、が、ち、の、ま、の、遠、ま、ご、づ、く、信、ち、ま、ご、づ、く、信、ち、ま、ご、づ、
あ、り、司、の、信、ち、ま、ご、づ、く、信、ち、ま、ご、づ、く、

左刀妣等能見流目波豆可之左夫流兒爾佐度波須伎美
我美夜泥之理夫利

さ、と、び、の、こ、る、め、は、づ、の、い、ま、ま、ご、づ、く、信、ち、ま、ご、づ、
ま、ご、づ、く、信、ち、ま、ご、づ、く、信、ち、ま、ご、づ、く、

支能敷
ノ誤カ

たぢましてことよけわりやほこりちよるでうさささ
支能香久乃葉子乎可之古久母能許之多麻敷禮國毛勢
下くのかぐのこのことかぐのこのことたまはれぬにせ
爾於非多知左加延波流左禮婆孫枝毛伊都追保登等藝
小ぢひたらさるえたるさればいころもいつほとくき
須奈久五月雨波波都婆奈乎延大雨多乎理互乎登女良
りちくさづきよいを一つをえぶ小さふりてをとめら
爾都刀爾母夜里美之路多倍能蘇泥爾毛古伎禮香具播
よつと小もやとみいろのそでよもこきれあがハ
之美於枳豆可良之美安由流實波多麻爾奴伎都追手爾
しみねきてからしみあゆるみいたまにぬきつてに
麻吉豆見禮騰毛安加受秋豆氣婆之具禮能爾零阿之比

支能敷
ノ誤カ

まきてみれどもあうぢあきづけはまぐれのあめあかあび
奇能夜麻能許奴禮波久禮奈為雨仁保比知禮止毛多知
きのやまのこぬれハくれなぬよにかひちれどもたち
波奈能成流其實者比太照爾伊夜見我保之久美由伎布
をまのなれるそのこいひしてわよいやみづはくみゆきふ
流冬爾伊多禮波霜於氣騰母其葉毛可禮受常盤奈須伊
るふゆいくれいともおけどもそのそむかれどときハなすい
夜佐加波延爾之可禮許曾神乃御代欲理與呂之奈倍此
やさうばるふとくれとそがいのみよアよろこまへこの
橘乎等伎自久能可久能木實等名附家良之母
たちまをときくのかぐのこのことなづけらも

田邊同守ハ垂仁紀三年春三月新羅王子天日槍來歸焉と云

そのは、天日槍娶但馬出島人大身女麻多鳥生但馬諸助也。諸助
生但馬日楯杵日楯杵生清彦清彦生田道間守と久ゆ、こころよ
わらうと、八、同紀九十年二月田道間守と常世国を遣て、トキミツ、カク、コノミ
と求し、今橋より乞也と、九十九年天日槍崩れ、
及、あくる年二月田道間守常世国より寶物、非時香菓八竿八
縷、と乞ふれ、古より、同じ、こころあり、三宅連等之祖名多
遲摩毛理と常世を遣とも、あつて、一、信末一、時の下支ハ
表の信末、人の、こころ、これ、は、國、お、た、ま、れ、ど、し、と、國、と、ま
ハ、國、も、獲、き、を、り、わ、ふ、孫、枝、も、伊、つ、枝、よ、又、お、枝、を、い、枝、と、ま
も、伊、ハ、も、え、と、通、し、い、り、波、都、婁、奈、の、婁、一、本、波、と、ま、を、よ、ま、枝、
た、を、り、て、花、を、枝、を、ら、お、て、と、し、と、し、や、ま、み、の、み、ハ、や、ま、
し、と、を、り、と、ま、を、ら、お、て、か、り、み、ハ、本、を、置、括、り、と、ま、一、お、ゆ、る、ま、ハ、

考八橋のあら、玉、費、五月と述、安要奴、の、小、考、十、杖、つ、け、ハ、水、ま、の
花、の、阿、要、奴、の、ふ、と、ま、を、く、そ、こ、れ、い、あ、く、あ、ゆ、る、ハ、熱、ま、る、と、ま、の
こ、ゆ、れ、ハ、お、の、お、い、仙、覺、抄、ハ、許、奴、礼、彼、久、余、仁、保、比、と、ま、を、く、久、余
の、る、こ、こ、三、字、國、字、あ、る、な、ま、と、を、仙、覺、の、考、ま、て、礼、奈、居、の、三、字、と
補、つ、る、よ、り、久、ゆ、い、の、ま、を、れ、と、ま、れ、ま、お、わ、ち、く、て、か、る、ま、わ、ら、り、
お、ゆ、れ、と、ま、ハ、考、六、葛、城、ま、橋、の、氏、と、賜、り、る、時、の、御、前、橋、ま、ま、と、ま
花、を、く、と、ま、を、ら、と、枝、を、ま、お、け、と、ま、を、ま、ま、の、ま、と、ま、を、ら、と、ま、
ま、り、ハ、大、正、の、考、ま、別、枝、を、い、る、ハ、今、常、藤、成、と、い、つ、ハ、常、一、き、藤
の、ゆ、く、と、い、ま、ま、と、ま、を、ら、と、ま、を、ら、と、ま、を、ら、と、ま、を、ら、と、ま、
花、ま、ま、あ、る、り、る、を、と、伊、柴、佐、伽、摩、曳、那、と、ま、を、ら、と、ま、を、ら、と、ま、を、ら、と、ま、
花、代、よ、り、ハ、藤、仁、の、流、伐、を、と、ま、を、ら、と、ま、を、ら、と、ま、を、ら、と、ま、を、ら、と、ま、

反歌一首

きづくは春は流流きゆくはさきもつとてあまのまほひまふくときく
るふもどくそ下のあをぬるるもいゆきつるこゝハ昔十二もかつて
くつり越はまほき固るれはく花づまハ豊妻とて花つるも
やこくこもあまゆりもきんとしひ下んときさゆり花いづりゆりハ
後わいりつゆりくよまはあれやあはるやとゆめや

反歌二首

奈泥之故我花見流其等爾乎登女良我惠未比能爾保比
於母保由流可母

なでこがそあこることこをこめらるるまよひのねむいおしやゆるこも
あまのまほひ

佐由利花由利母相等之多波布流許已呂之奈久波今日
母倍米夜母

之ヲ也
二保

さゆりをまゆりしあつむとささづきさるるうたかくハけつえんめやし
きりづるハ下よつとささづきさるるうたかくハけつえんめやし
ちんやとん

同閏五月二十六日大伴宿禰家持作

國掾久米朝臣廣繩以天平二十年附朝集使入京其事
畢而天平感寶元年閏五月二十七日還到本任仍長官
之館設詩酒宴樂飲於時主人守大伴宿禰家持作歌一
首并短歌 長官のト之の字と也又送一むみよくと改

於保伎見能未伎能未爾未爾等里毛知底都可布流久雨
おほきそのまきのまふくこアもちてつるよるくみ
能年内能許登可多補母知多未保許能美知爾伊天多知
のとのちものことかたねもちたよがこのみちにいでたち

伊波禰布美也末古衣野由伎彌夜故敵爾末為之和我世
いとねよみやまこゑのゆきみやこづまゐしわがせ
乎安良多末乃等之由吉我敵理月可佐禰美奴日佐末禰
をあらたまのとしゆきがアつきゐせぬみぬひさまね
美故敷流曾良夜須久之安良禰波保止止支須支奈久五
みこふるそらやまくりあらねばほとぎさきなくさ
月能安夜女具佐余母疑可豆良伎左加美都伎安蘇比奈
つきのあやめくさよもきかつらきさかみづきあそびな
異禮止射水河雪消溢而逝水能伊夜末思爾乃亦多豆我
くれといみづのハゆきけをふてゆくとのいふまゝのそたつが
奈久奈吳江能須氣能根毛己呂爾於母比牟須保禮奈介
なくなごゑのむげのねもころよおひひむきぼれなげ

伎都都安我末川君我許登乎波里可敵利末可利天夏野
きてあのみつきいごうをりかつりまのそてなつの
能佐由利能波奈能花咲爾雨布夫爾惠美天阿波之多流
のさゆりのをさのをさのよふよふよとてあハしたる
今日牟波自米氏鏡奈須可久之都禰見牟於毛我波利世
けよをばいめてかゝたぬまかくしねえむおもがさしせ
む須
む

末伎ハ上のあふしありとわをもちてハ官とと執おく古事記上
卷思兼神者取持前事為政表十七とすとむのくさむらてい
よめこのかぬわち八履ると俗かげるといひ少同くハかおる
とよとて又記録は結束を古くたがねと訓うたふつねを

お久きくくそや〜くせり〜くよまき〜くよめ〜くせし〜くせり〜くせり〜

為向京之時見貴人及相美人飲宴之日述懷儲作歌二首

相の字ハ遷字ナリ又ハあ〜とよ〜

見麻久保里於毛比之奈倍爾加都良賀氣香具波之君乎
安比見都流賀母

みま〜くほりおわひ〜あ〜よかづら〜のけが〜りき〜とを〜あ〜い〜つ〜か〜も
室も〜かづら〜のげハ山獲日遠〜き十四あり〜びきのむ麻可〜あ〜い〜か〜ま〜
よ〜え〜か〜ま〜の〜ま〜と〜お〜ま〜あ〜と〜よ〜あ〜と〜く〜く〜か〜く〜ハ〜の〜抱〜河〜あ〜ら〜
〜と〜ら〜か〜く〜ハ〜手〜あ〜あ〜後〜く〜細〜女〜の〜こ〜よ〜い〜つ〜ら〜又〜ハ〜は〜叶〜ハ〜段〜子〜は
よ〜あ〜く〜か〜づ〜ら〜き〜ま〜と〜よ〜あ〜ら〜あ〜や〜も〜ハ〜増〜約〜よ〜ら〜あ〜人〜よ〜あ〜つ〜と
よ〜あ〜ら〜ら〜

朝參乃伎美我須我多年美受比左爾比奈爾之須米婆安

初解十八 四十

禮故非爾家里

まおののきみびすのしを〜ま〜い〜ひ〜あ〜よ〜も〜あ〜れ〜し〜あ〜ら〜

神白言まおのの言中〜あ〜ら〜と〜し〜室〜を〜旅〜考〜ハ〜信〜子〜ら〜ら〜

胡戸出〜ら〜ら〜や〜い〜つ〜推〜考〜〜し〜ハ〜貴〜人〜よ〜ま〜ら〜ら〜と〜よ〜あ〜ら〜

一頭云波之吉與思伊毛我須我多年

か〜ら〜ハ〜これ〜も〜貴〜人〜よ〜あ〜ら〜ら〜あ〜と〜ら〜ら〜

同園五月二十八日大伴宿禰家持作之

天平感寶元年閏五月六日以來起小旱百姓田畝稍有
凋色也至于六月朔日忽見雨雲之氣仍作雲歌一首

短歌一絶

起ハ赴の信の稍一本稻ハ六の上今の字あり短の上年の

須賣呂伎能之伎麻須久爾能安采能之多四方能美知爾
 きめろぎのまきまきくふのあめのーたよものみちよ
 波宇麻乃都采伊都久須伎波美布奈乃倍能伊波都流麻
 いらまのつめいつくまきいみふまのーのいもつるま
 泥爾伊爾之敞欲伊麻乃乎都頭爾萬調麻都流都可佐等
 でいいふーへよいまのをつよよろづままつるつこのさと
 都久里多流曾能奈里波比乎安采布良受日能可左奈禮
 つくまたるうのならはいをあめよろずひのささるれ
 波宇惠之田毛麻吉之波多氣毛安佐其登爾之保美可禮
 ばうゑーたもまきーはたけとあさごとふまぼこりれ
 由苦曾乎見禮婆許己呂乎伊多美彌騰里兒能知許布我
 ゆくそをみればくろろをいたるみどろこのちこよの

其登久安麻都美豆安布藝豆曾麻都安之比奇能夜麻能
 ごとくあまつみづあよぎてそまつあーひまきのやまの
 多乎理爾許能見由流安麻能之良久母和多都美能於扱
 たをりにこのみゆるあまのちらくもわさづみのむき
 都美夜敞爾多知和多里等能具毛利安比豆安采母多麻
 つみやべなたちわさとのぐせりあひてあめもたま
 波禰
 はね

いつきいそつるのいごりて夜修うまのつえくハ新年祭祀詞よ青
 海原者棹カッネ放不干舟カネ能至ミ苗極大海尔舟満都カネ氣カネ自陸往道者荷
 堵モト傳カネ堅カネ磐根木根履佐久弥カネ馬爪至苗限長道無間カネ立都カネ氣カネ
 とあふよ同いんこのをつい現ん手調まつつうさくハ松ハあいのさふ

なるもの中ゆくをうらとらる物もれはさのいつりあうそひハ世々和名
抄に續搜神記云江南畠種豆畠一云陸田和名ハ一有ちふぶとくハ
小児の乳を乞ぬくと、あまつね、事二天つ水あまぎて結ふとあり
名而をり、山のまをりハたつみ、まめくもゆるあをり、けえゆると
今えゆる白きとて、おまら、や、よ、おまら、神といふも、同
く、海の神のまをり、のぐわりあひて、棚引をとり、とて

反歌一首

許能美由流久毛保妣許里互等能具毛理安采毛布良奴
可許已呂太良比爾

このゆきもむじしうくこのぐわりあまふらぬめさるるに
ほびさうハおれいむろごうん、さきむじしうり、さあ、ハ、れ
うと、ゆ、い、ん、たり、と、い、る、河、を、能、ま、り、あ、え、

右二首六月一日晚頭守大伴宿禰家持作之

賀雨落歌一首

和我保里之安采波布里伎奴可久之安良波許登安氣世
受禰母登思波佐可延牟

わのほりーあめ、ちきぬかくーあ、こ、あ、げ、せ、す、こ、い、さ、の、え、ん
わ、り、い、欲、し、ん、天、地、の、神、又、祈、申、と、こ、あ、げ、と、こ、ま、ハ、い、る、こ、ハ、祝
詞、格、を、奥、津、御、年、と、ま、く、こ、も、し、も、う、格、と、り、よ

右一首同月四日大伴宿禰家持作之

七夕歌一首并短歌

安麻泥良須可未能御代欲里夜洲能河波奈加爾赦太互
あまてらすかみのみよ、や、す、の、は、な、ら、ん、へ、ご、て
且牟可比太知蘇泥布利可波之伊吉能乎爾奈氣加須古

宇の字
ニ程

てむあひこちそでふわのばしいきのをになげのすく
良和多理母理布禰毛麻宇氣受波之大雨母和多之氏安
らわこアもわよねもまうけすはいたふもわこしてあ
良波曾能倍由母伊由伎和多良之多豆佐波利宇奈我既
らハそのへゆといゆきわこらいたづさをアうあがけ
利為氏於母保之吉許登母加多良比那具左牟流許已呂
りゐておほほまこともかこらひなくせむるこる
波安良牟牟奈爾之可母安吉爾之安良禰波許等騰比能
ハあらむをあふ一のしあきふ一あらねハこととひの
等毛之伎古良宇都世美能代人和禮母許已牟之母安夜
とも一きこらうつせみのよのひとわれしををしあや
爾久須之彌往更牟能波其登爾安麻能波良布里左氣見

ふくむ一みゆきあると一のばことにあまのつらふあさげこ
都追伊比都藝爾須禮
つ いひつきふられ

やまのほ神代紀八十萬神會合於天安川邊とあれ神のこを
といつりあまてらとて神と申すはきのをハ息の
供ふ命のきつるとりまはなげなまこる神句母し設てて
向くそのゆしハと上後とハ外の小ハ波波とてあがめりハ古る此
上卷宇那賀氣理互至今鎮坐也とあり項と手とあつて款と云ひ
居とりて神のほここの様もさりどそきこる神句許已の下今
本字とあるハ平のほりさるまうしとそしこれとてハハ助
あやハ嘆詞くみみハ音一きりうしてハ年のえ改ま出いしきよ
ハ世人の代ハ語体とりよハ法句礼とあつていふされとくを

よーもの記ふこそ多き存をく室をいつて

反歌二首

安麻能我波く志和多世良波曾能倍由母伊和多良佐牟
乎安吉爾安良受得物

あまののばをわかせらそそのゆいわらさむをあまあらさとも
夜須能河波許牟可比太知且等之能古非氣奈我伎古良
河都麻度比能欲曾

やまののばくむのいこちくとこのいけあまきこらがつまどひのよそ

考十天漢已向立而よりよりより此の略く從此の波を多くよめると
会考一、とのい年中の志よりより考十、そのあま、年の志
くよいつていあり

右七月七日仰見天漢大伴宿祢家持作之
越前国掾大伴宿祢池主来贈戲歌四首

万解十八 四十四

加加保

忽辱恩賜驚欣已深心中含咲獨座稍開表裏不同相違
何異推量所由率爾作策歟明知加言豈有他意乎凡貿
易本物其罪不輕正賊倍賊宜急并滿今勒風雲發遣徵
使早速返報不須延回

勝寶元年十一月十二日 物所貿易下吏

謹許 貿易人断官司 廳下

忽辱といひ驚欣といふ思がけ多くよろこぶ表裏ハ違ふ違ふといひ
のいふ策ハ謀のこころく貿易せむと云率爾よ作と作つてあま
表裏とつて違ふといふ池の推量のものといふ
何れかのつけあふやと自らこととさるべんといふ下は
貿易本物といふ池まよはせむと云と考りて後ハ
支を同じむて他のものといふと云ふ本物の名令律を護本

返しければ表々素よ、裏々よ假てり、さきゆゑうそといふさうぞ、
妾沖ハちのれうと、おのれりてといふふいぢあらん

波利夫久路、應婢都都氣奈我良、佐刀其等、邇天良佐比安
流氣騰比等毛登賀米授

はらぶくろおひつげあづらせとてふんて、さしあはけいひくとかめよ

おひつてくろくろ、妾沖ミ等侍さきも、おのれ應婢の字り、又振さき
かまかち、湯字あらん、てらさきいハ衝きく、俗むくく、うしあ新

とつて、同、ハハマ、ちまき、あられ、人よとらさき、ハほれど、飛、ハマ、ハ
て、さきと、む、おのれ、な、う、と、り、よ、さ、き

等里我奈久安豆麻乎佐之天布佐倍之雨由可牟登於毛
倍騰與之母佐禰奈之

い、う、の、あ、く、あ、づ、ま、を、さ、き、て、よ、さ、き、に、ゆ、え、ん、と、お、も、で、よ、う、と、さ、ね、あ、

北シ比ニ稍
ヲ稍ニ囉
ヲ囉ニ指
ヲ指ニ誤

ふさハ古子紀ハ千子神の由、あ、許礼波布佐波受、さ、許母布佐波受、さ、
さ、さ、い、と、ハ、さ、さ、の、う、ら、も、く、ら、う、と、さ、き、い、と、さ、き、い、
う、う、さ、と、り、う、う、さ、と、え、く、何、ゆ、お、の、難、さ、不、祥、日、本、紀、と、さ、き、う、さ、か、の、紀
の、不、祥、と、さ、き、の、訓、さ、本、書、つ、と、さ、き、う、さ、き、い、と、さ、き、い、と、さ、き、い、と、さ、き、い、
得、よ、れ、ん、と、さ、き、い、と、さ、き、い、と、さ、き、い、と、さ、き、い、と、さ、き、い、と、さ、き、い、と、さ、き、い、

右歌之返歌者脱漏不得探求也

更来贈歌二首

依迎驛使事、今月十五日到来部下加賀郡境、面陰見射
水之郷、戀緒結、深海之村、身異胡馬、心悲北風、乘月徘徊
曾無所為、稍聞来封、其辭云、著者先所奉書、返畏度、疑歟
僕作囑囉、且惱使君、夫乞水、得酒、從來、能口論、時合理、何
題、强更平、尋誦針袋詠、詞泉酌不竭、抱膝獨咲、能蠲旅愁

伏ヲ伏ニ
記ヲ記ニ
誤

陶然遣日何慮何思短筆不宣

勝寶元年十二月十五日 徵物下司

謹上 不伏使君 記室

妾侍之池皇御之越中掾よりお持ちの属せられたるが長は越前掾より
如く加賀郡より文子此ちとお持ち一務れるに加賀八元仁十四年
お越おより割とて置れらうといふ勝寶元年より部下よりつる勿論に
加賀郡へ今の加賀国四郡の中よりお持ちとて射水泳海におよ
お持ちより後くたより往來せしおられは思ふさまも胡馬とて古詩より
乃そく胡るハ心地より度せざるおられは思ふさまも胡馬とて古詩より
お持ちの方よりお持ちのわがいに不為とてお持ちのせんもいたまきへ著者
えの十一字にお持ちよりの來封と枝りたるも思ふさまも胡馬とて古詩より
されど脱淫のくべし著者ハ昔者を寫淫のくべし或人のいふ元唐本

鮮十八 四十一

其辭云著者と其辭云と者ハ此漢作とて下のあの註をよみかき
正言ハ囉囉ハ此よりお持ちの体を継てとありしとて思ふさまも
得酒とハ此のこぞよりお持ちの體とて思ふさまも思ふさまも
川とて思ふさまも思ふさまも思ふさまも思ふさまも思ふさまも
とて思ふさまも思ふさまも思ふさまも思ふさまも思ふさまも
此の四節は著るこのくさるハお持ちの方のよきよきハ思
お持ちのくさるハ思ふさまも思ふさまも思ふさまも思ふさまも
物とて思ふさまも思ふさまも思ふさまも思ふさまも思ふさまも
定ハ下僚の書記の人をよきとて思ふさまも思ふさまも思ふさまも
唐本よりよきとて思ふさまも思ふさまも思ふさまも思ふさまも

別奉云云歌二首

多多佐爾毛可爾毋與己佐毋夜都故等曾安禮波安利家

流奴之能等能度爾

たきふしかあよこししやつことぞあれにありけるぬのとのよとて

妻沖しつとてに望むるまよふことばに横をまかすといふことつとてか

おかくしつとてに望むるまよふ横をまかすといふことつとてか

まよふことばに望むるまよふことばに望むるまよふことばに望むる

望むるまよふことばに望むるまよふことばに望むるまよふことばに望むる

望むるまよふことばに望むるまよふことばに望むるまよふことばに望むる

望むるまよふことばに望むるまよふことばに望むるまよふことばに望むる

波里夫久路己禮波多婆利奴須理夫久路伊麻婆衣天之

可於吉奈佐備勢牟

をちぶくろれたつぬらふくろのまいてーのおきなせびせん

むらふくろの煙袋の累行に以極出火和名抄極

万解十八 四十八

おの火うちがくそよもんそして、あつ物の葉さうらつけるけりいおやと

あつ物の葉さうらつけるけりいおやと

あつ物の葉さうらつけるけりいおやと

あつ物の葉さうらつけるけりいおやと

あつ物の葉さうらつけるけりいおやと

宴席詠雪月梅花歌一首

由吉能字倍爾天禮流都久欲爾鳥梅能播奈乎理天於久

良年波之伎故毛我母

ゆきのうまこれるつくよけりめのをまをめておくらんげしきこもがし

ゆきのうまこれるつくよけりめのをまをめておくらんげしきこもがし

右一首十二月大伴宿禰家持作

と中世のまろし元唐ゆとん

和我勢故我許登等流奈倍爾都禰比登能伊布奈宜吉思
毛伊夜之伎麻須毛

わのせむぶことるなまふつねびよのいまげきこいやーまきまよー

此字あま石竹等ひるたるぐー老人のよまげきとひまきまきとれいまげ
きえまげーくも等の下地つまやこれるこもよまきと右より等
感て歌くすもれいアまきまきとまきまきとハワいおさるる

右一首少目秦伊美吉石竹館宴守大伴宿禰家持作

天平勝寶二年正月二日於國廳給饗諸郡司等宴歌一
首

安之比高能夜麻能許奴禮能保與等里天可射之都良久
波知等世保久等曾

あじきのやまのこぬれのおよそせなごつらくハちよせほくとそ

こぬれハ本末くおよハ和名抄寄生一名寓生、和名夜止里、
老あまよきるそのもれハ保久とひまきとまきまきとつらくと近
ほくハワいおさるる

右一首守大伴宿禰家持作

判官久米朝臣廣繩之館宴歌一首

牟都奇多都波流能波自米爾可久之都追安比之惠美天
婆等积自家米也母

むつぎこつたものぢぬれかいつあひまきとまきまきとけめやも

あひのハ脚舞まお笑てあまこまきまきとあまハあまさんとい
けあハけんとい何と甲、あまゆくこの何とれがけららくあまさんといハ
学ぢんといふこまかれ

同月五日守大伴宿禰家持作之

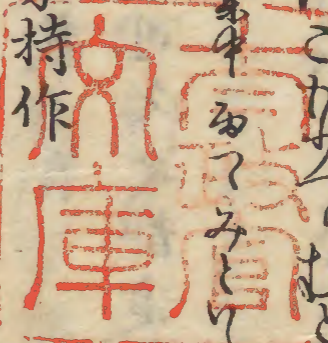
縁_レ檢_レ察_レ壑_レ田地_レ事_レ宿_レ礪_レ波_レ郡_レ主_レ帳_レ多_レ治_レ比_レ部_レ北_レ里_レ之家_レ于_レ
時_レ忽_レ起_レ風_レ雨_レ不_レ得_レ辭_レ去_レ作_レ歌_レ一_レ首

夜_レ夫_レ奈_レ美_レ能_レ佐_レ刀_レ雨_レ夜_レ度_レ可_レ里_レ波_レ流_レ佐_レ采_レ雨_レ許_レ母_レ理_レ都_レ追_レ牟_レ
等_レ伊_レ母_レ雨_レ都_レ宜_レ都_レ夜

やよまそのととれやとかつはるさあにこわつたむどいもれつげつや
ふまそのととれやとかつはるさあにこわつたむどいもれつげつや
ふまそのととれやとかつはるさあにこわつたむどいもれつげつや

二月十八日守大伴宿禰家持作

一本十一日乙卯ふと本家持作のニ字と脱せし言をとりて補



萬葉集卷第十八

